

## はなぞむかしの かににほひける

第7期 OG 菊盛 真衣  
(新姓 石井)

コロナ禍が明け、今年は多くの友人と再会できたことがとても心に残っています。その中で、一番印象的だったのは、同期の第7期女子全員との再会を果たせたことです。全員が集まるのは、なんと卒業以来の12年ぶり(!!)のことでした。長い間にそれぞれがライフステージを駆け上がり、全員が母となって再会したのは、ここ最近感じたことのない安心と心強さを感じさせる出来事でした。私にとっては、ゼミの同期は特別で、自分の原点に立ち戻れるような感覚があるし、今回の再会もそうですが、会えば背中を押してもらえそうな感じがいつも残ります。彼女たち以外にも、第8期の奥野さんが大阪帰省の折に連絡をくれて、カフェで3時間くらい喋りました。家族以外の大人とサシでそんなに長いこと話すのは久しぶりで、突き抜ける爽快感でした。第12期の梶田くんの声かけで第9期の清水鈴ちゃんと私の家族で食事をしたり、同期の白石幸太郎くんが今年もゼミに来てくれたりと、沢山の小野ゼミ卒業生に会う機会に恵まれました。後輩も含めて親しい友人に会うことで、自分がどこから来て、今どこに立っていて、これからどこに向かおうとしているのかを俯瞰できました。視界良好、全速前進、レッツゴーゴー！といった気分です。

話は変わりますが、私のゼミでも、4年ぶりにOB会を開催して、多くの卒業生に再会することができました。教員と学生という立場の違いのせいかな、友人との再会ほど感慨はなかったです(笑)。が、タテヨコ関係なくゼミ生同士が、それはそれは楽しそうに交流しているのを眺めていると、彼らにとっては、このゼミや仲間が原点として立ち戻れる場所なのかもしれないと感じました。今後もそういう場所として機能できるように大事に育てていかないといけないと思い直した次第です。



5月 4年ぶりの菊盛ゼミOB会開催！沢山の卒業生と再会することができました！（著者は最前列中央）

日々、研究・教育、育児のルーティンを同じようにこなしている、物凄く調子が良くてハッピーな日もあれば、上手くいかないことだらけのバッドな日もあります。人生は希望と絶望の繰り返し、山と谷を走り続けるしかないけれど、自分がどこから走ってきたのか、1人で走っているのか、「あれあれ、あれれ？」



12月第7期白石くんがゼミ5期生に講演してくれました！

と思いつく時がふとあります。そんな時に、昔からの仲間や友人は、「おーい、こっちこっち！」と来た方向と行き先を照らしてくれるような、曇りを晴れにしてくれるような存在な気がします。また会う日を楽しみにしながら、全力疾走したいと思っています。

さて、このエッセイのタイトルは、「人はいさ心も知らずふるさとは 花ぞ昔の香ににほひける」という紀貫之の百人一首から取っています。昔なじみの宿に数年ぶりに訪れたら、その宿の主人に「すっかり顔出さなかったじゃないの、うちのこと忘れたんじゃないかと思ったぜ」と嫌味を言われてカチンと来て、「いやいや、あんたの方こそ、あたいのことなんて忘れてたんじゃないの、でも、この里の梅の花の香りは昔のままだよ」というお返しの意味の歌だとか。今年多くの友人たちと果たした再会は、この歌で描かれる梅の花の良い香りが心に運ばれるような感覚でした。梅の花が咲き始めた今日この頃、春の訪れを予感させる甘い香りに、友人たちの健康と幸福を祈りつつ、次の再会に思いを馳せています。



大学卒業した2011年ぶりの第7期女子再集結！今も昔も賑やかでワチャワチャ！（著者は左端）